



地域共同管理空間(ローカル・コモنز)の包括的再生の技術開発とその理論化
研究代表者: 桑子敏雄(東京工業大学大学院・教授)



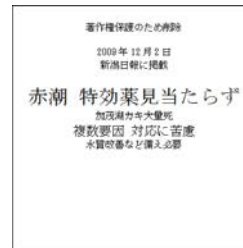
本研究のフィールド
新潟県佐渡島・加茂湖水系
出典: Google earth、Google

ローカル・コモنزとは

本プロジェクトでは、次の三つの要素を統合して「ローカル・コモنز」と呼ぶ。

- ①空間
地域によって共同で管理される山林、河川、農業用水路、ため池、海岸等
- ②資源
空間内で活用されるエネルギー資源(薪炭・流木)、水資源、食料資源(山菜・きのこなど)
- ③マネジメント・システム
共同で空間を管理し、資源を活用する地域のしくみ

加茂湖をめぐる課題 環境・資源の劣化



2009年12月2日
新潟日報



矢板コンクリート護岸

- 護岸整備(農道整備事業)による水循環の悪化
- 船上洗浄機による水質の悪化(1990年~)
- 赤潮プランクトンの大発生(2009年)
- ホヤの大発生(2010)
- カキ漁の低迷

加茂湖をめぐる課題 地域力の衰退



かつては地域の人びとにとって身近な存在であった



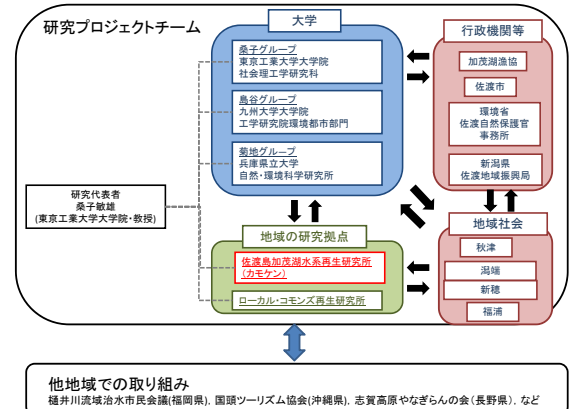
カモケンと佐渡中等教育学校との協働による加茂湖エコワークの様子
今では加茂湖で泳ぐ子どもたちの姿はほとんどみられない

- 地域住民と加茂湖との関係の希薄化
- 多元的な価値の喪失

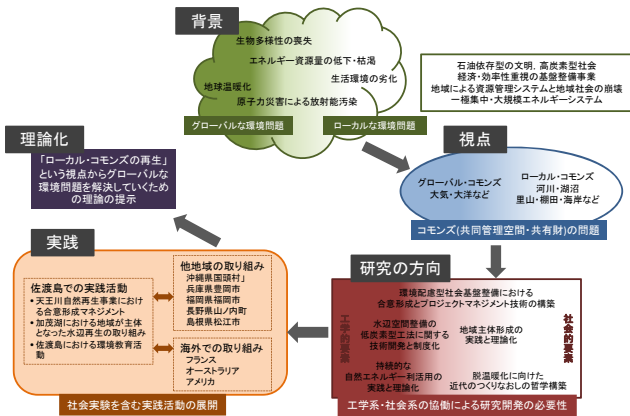


名勝として描かれた加茂湖

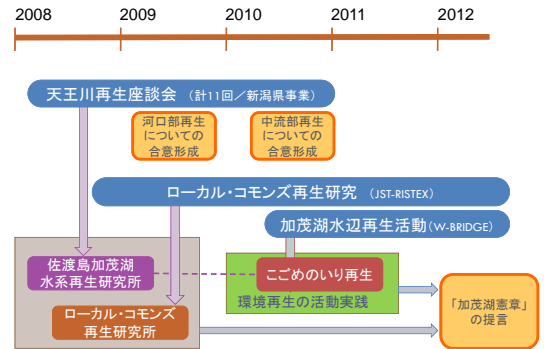
プロジェクトの体制



本プロジェクトのアプローチ



主な活動の経緯



実践上の成果

「地域に根ざす」から「地域に根を張り、幹を伸ばし、花をつける」段階へ

地球環境問題への視点をもつ地域活動の主体としてのカモケンの成長と加茂湖再生の実現への第一歩

市民組織「佐渡島加茂湖水系再生研究所」(通称:カモケン)

- 2008年設立以降、地域の多様なニーズに即した活動を展開
- 佐渡市と新潟県の共催による「加茂湖環境対策検討協議会」に市民組織の代表として参加
- 漁業者、農業者、主婦、生態学者、生物学者、土木技術者、行政職員、教育関係者など多様なプロフェッショナルが参加
- こごめの入り再生工事(市民工事)の実施

加茂湖をコモンズとして再生していくプロフェッショナル集団へと成長

平成24年度ECO JAPAN CUP 元気大賞受賞



国土交通省の進める多自然川づくりによる河川整備におけるCO2削減の制度化

- 佐渡島での実践活動をふまえて、多自然川づくり工法におけるCO2削減効果を算出した。
- 自然に配慮がなされた計画論ほどCO2排出量が小さく、低コストであることを明らかにした。
- この成果を受けて本PJのメンバーである島谷と桑子は、国土交通省による「中小河川に関する河道計画の技術基準」および「多自然川づくりポイントブックⅢ」へCO2削減への配慮を組み込むことに成功した。



国土交通省への提言の基礎となったコモンズ再生のCO2削減ポテンシャルの概算

- 多自然工法による水辺再生の削減効果=8,541,213 (t/y)
- 里山の利活用によるCO2削減効果= 33,000,000 (t/y)
- 農地再生による削減効果= 204,664(t/y)
- 農村地域のライフスタイル変革による削減効果= 22,812,169 (t/y)
- 農村地域への移動による削減効果=5,369,914 (t/y)

コモンズ再生によるCO2削減ポテンシャル
= 8,541,213 + 33,000,000 + 204,664 + 22,812,169 + 5,369,914
= 69,927,960 (t/y)

1990年総排出量(1,261,000,000t)に対して5%の削減効果
80%削減の約7%に相当

新潟県による天王川自然再生事業での合意形成の実現

- トキの野生復帰を支援するために実施する生物多様性保全型・住民参加型で自然再生のための土地買収を行う全国初の河川再生事業
- 新潟県からの依頼を受けて、合意形成マネジメントチームとして事業に参加
- コミュニケーションデザイン、話し合いのファシリテーション、ヒアリング、情報発信などを実践

▶ 事業推進をめぐる、行政機関と地域住民との間に深い対立があるなかで、自然再生計画案について合意形成を実現



合意形成の成果として示された天王川中流部再生のイメージパース (2010年2月)

環境ガバナンスに向けて「法定外公共物」にはじめてのルールづくり

佐渡市への提言:「佐渡島加茂湖憲章談義」の実施による加茂湖再生指針の作成

佐渡島加茂湖憲章

1. わたしたちは、佐渡島の加茂湖をみんなの財産として、その恵みに感謝し、大切に守り育てます。加茂湖に楽しく集い、協力しながら、昔のように豊かな葦原が広がる加茂湖の再生を実現します。
2. 加茂湖水系は、太古の昔から形成された自然と歴史・文化の履歴をもっています。わたしたちは、トキをはじめとする野鳥の楽園としての、また、カキや希少な動植物のゆりかごとしての加茂湖だけでなく、河川、水路や水田、丘陵、水源地域の森林など、加茂湖水系特有の生態系や風土について詳しく調べ、その結果を広く共有し、また理解を深めます。
3. 加茂湖は、漁業資源や観光資源などを含む多様な価値をもっています。わたしたちは、これらの価値を認識し、その調和ある利活用をめざします。
4. 加茂湖に注ぐ河川、農業用排水、生活排水、地下水流および両津湾からの海水の流入による水と物質の循環について配慮しながら、加茂湖水系の健全性を高めます。
5. わたしたち、市民、漁業者、企業家、専門家、行政担当者は、それぞれの立場から、加茂湖にかかわる活動の方法を工夫、改善します。加茂湖の再生は、できることから実行し、効果を確認しながら、水系全体へと広がっていきます。
6. 子どもたちから高齢者にいたるまで、各世代をつなぎ、将来世代も加茂湖の恵みを受けられるように、再生を進めます。
7. 地域だけでなく、国内外や地球全体への視点も踏まえ、生物多様性と地球温暖化の課題にも目を向けます。
8. 具体的な再生を推進するとともに保全のためのルール・マナーづくりも一体的に進めます。

加茂湖を愛する者一同

カモケンによるこごめの入り再生工事



こごめの入り再生のための諸活動および市民工事の工事資金はW-BRIDGEからサポート

ヨシ原再生を進めている「こごめのいり」の様子
2012.5.18撮影



地域主体の形成促進法としての「ふるさと見分け (Method of Finding Homeplace)」の開発と実践



加茂湖ふるさと見分け



加茂湖沿岸地区、福浦集落のふるさと見分け

研究プロジェクトを通じた人材育成

- 地域の中高一貫校との連携の蓄積による将来世代の育成
新潟県立佐渡中等教育学校との連携による「加茂湖エコウォーク、エコワーク」実践(2009年～2012年の4年間継続)
参加延べ人数1,000名、支援活動100名
- 地域主体としてのカモケンメンバーの成長
→ 市民工事の実現
- カモケン参加メンバーの増加
- 地元建設業者の自然再生技術研修会の実践
- 研究者育成
…本プロジェクトで学位取得、高等研究機関に就職2名
- 関係行政機関への就職5名(国土交通省、地方自治体など)

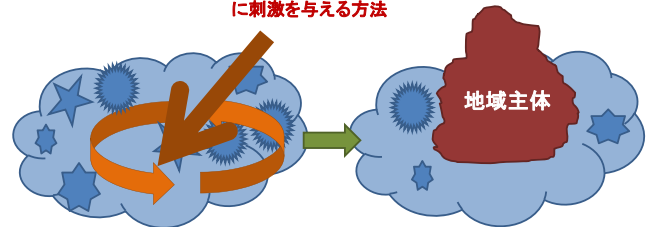
理論上の成果

地域での実践活動の理論化と世界への発信

主体形成の理論(「ふるさと見分け」の方法)

紋切り型(タイ焼き型)ではなく、国生み型(スボコ型コロコロ方式)で

地域性の深い認識をベースに、そのさまざまなニーズを正確に捉え、その飽和状態に刺激を与える方法



地域の主体形成のための「談義」の方法の実践と理論的洗練

加茂湖再生談義

この「談義」という制度は、地域の自然再生が進行中、活動には地域の子どもたち、学生たちも参加しています。豊かな水辺づくりに向けて、子どもたちと一緒に、加茂湖の再生を楽しみましょう。



日時：2011年4月30日(土) 13:30-16:30
会場：トキ交差点大ホール(フォーラム2階2020号プログラム)

13:30-14:30 第1部 このくらいの未来を聞くフィールド

15:00-16:30 第2部 加茂湖再生談義・子どもたちによる

伊原：長瀬文幸(山形大学、加茂湖再生センター)
司会：石川孝(山形大学)

【主催】加茂湖再生推進委員会(加茂湖再生センター)
【協賛】山形県加茂市、加茂市、加茂市立加茂湖再生センター、加茂市立加茂湖再生センター、加茂市立加茂湖再生センター

【お問い合わせ】加茂市環境課 0123-22-2222

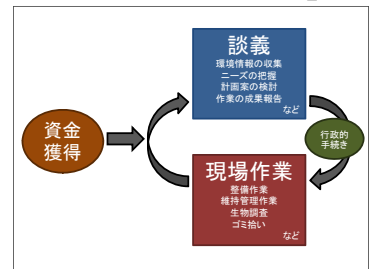
【お問い合わせ】加茂市環境課 0123-22-2222

【お問い合わせ】加茂市環境課 0123-22-2222

【お問い合わせ】加茂市環境課 0123-22-2222

【お問い合わせ】加茂市環境課 0123-22-2222

コモンズ再生の手法としての「市民工事」

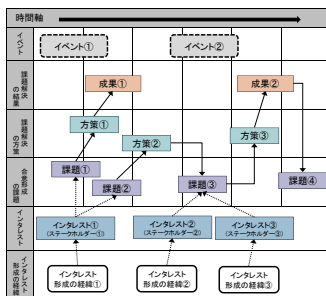


市民工事のしくみ

合意形成マネジメントの理論構築

- 適切に合意形成プロセスをマネジメントするためには、ステークホルダーのインタレストが形成された経緯を適切に把握し、インタレストレベルでの対立を克服したうえで、意見レベルでの合意を目指さなければならない。
- 事業全体の合意形成は、事業が進む過程でその都度顕在化する課題をひとつひとつ解決することで実現する。

→合意形成プロセスを重要なファクターにもとづいて構造的に把握するためのフレームを考案



合意形成プロセス構造把握フレーム

近代のつくり直しの哲学構築とその実践法

- 理由の来歴**
地域社会や特定空間で人びとの「意見の理由」が形成されるそのプロセスを示す概念
- 局所的風土性**
地域の地形や気候などの微少な変化によっても差異の生じる人びとの関心・懸念を把握するための概念
- 環境的自律性**
地域特性の把握方式にもとづき、地域の人びとがコモンズ再生の主体として活動するためにもつべき条件として考案された概念

人びとの多様かつ複雑なインタレストをふまえて、地域に根ざす形でコモンズ再生のプロセスを構築するための概念要素
→ コモンズ再生のための地域主体形成の促進方法としての「ふるさと見分け(Method of Finding Homeplace)」

研究成果の海外発信

アメリカ・テキサス州の地下水保全事業・研究者との議論の成果

- Petrossian, R., Kato, M., Takada, T., Umetsu, K.: [Finding Homeplace](#) -Texas Groundwater Stakeholders Finding a Place in the Desired Future Conditions Decision Making Process-

オーストラリアのランドケア活動との連携の実現

- Siegel, Michael T.: [Consensus Building Revisited](#) -The Experience and Approach of Toshio Kuwako-, Center for Dialogue, Working Paper Series, La Trobe University.

フランスの市民参加型景観形成に関する研究への参加

- Alban, M.: [La résurgence des sociétés civiles urbaines au Japon. Éléments pour une résilience territoriale](#), The Resurgence of Urban Civil Societies in Japan, Elements for a Territorial Resilience, in [CROISEMENTS](#), N° 2 Ville réelle, ville rêvée, L'Atelier des Cahiers, Paris, pp.178-198 (in French), 2012.
- Alban, M.: [Participation et développement soutenable des territoires. L'expérience de médiateur de Kuwako Toshio au Japon, Participation and Sustainable Development of Territories, The Experience of Mediator of Toshio Kuwako](#), In Nussaume Y., Perysinaki A-M, Sery J. (dir.), [La maison individuelle : vers ou envers des paysages soutenables?](#) (in French), 2012.

哲学・倫理学に関する国際会議への参加・発表(台湾、アメリカなど)

- Kuwako, T.: [Philosophy and Management for the Sustainability of the Commons. International Conference on Agricultural Ethics in East Asian Perspective](#). National Taiwan University, Taipei, China, 2012.3.(招待講演)
- Toyoda, M.: [Revitalizing Rural Environments through Democratic Inquiry](#), 10th East West Philosophers' Conference, Honolulu, 2011.5.

今後の展望

- プロジェクトの成果を論文および書籍として出版
- 「ふるさと見分け学会」の創設
- 海外との連携強化



ご清聴ありがとうございました。